

【快適な農村空間の形成】

～ 「ふるどの西地区の整備」 中山間地域の立地条件を活かしながら 農村の活性化と国土保全を目指す ～

1 地域の概要

本地域は、福島県の東南部で中通り地方の東端に位置し、総面積 163.47 km² の起伏の多い山間地帯である。生活基盤は、おおむね標高 260m ～ 600m に分散し、町の中心を横断する 2 級河川「鮫川」の流域に耕地が開かれている。

気候は、太平洋沿岸の表日本型気候を呈しているため、気温は温暖であるが、夏冬の気温差は大きい。年間降水量は 1,200 mm ～ 1,600 mm 程度であり、農地は 5 % とわずかである。

本地域の農業は山間地帯のため、小区画の農地に稲作を中心とした畜産、野菜、葉たばこを組み合わせた複合型農業を展開している。また近年は、就農者の高齢化、兼業化の進行により耕作放棄地が増えつつあり厳しい状況となっている。

2 実施の概要

町の西部区域を中心として以下が総合的に整備された。

- (1) 農業生産基盤：①農業用排水施設整備 ②農道整備
- (2) 生活環境整備：①農業集落道整備 ②営農飲雑用水施設整備 ③集落防災安全施設整備 ④用地整備 ⑤農村公園施設整備 ⑥活性化施設整備
- (3) 交流基盤：①都市農村交流施設基盤整備 ②施設間連絡道整備

3 取組みの契機、進捗状況

本町では、21 世紀に向け「はたらきがいと、活力ある町づくり」の基本構想に基づき各種事業を積極的に活用推進し、基幹産業である農業の振興、生産基盤の整備、生活環境基盤の整備等、魅力ある町づくりを目指してきた。

しかしながら、未整備な農業用施設、就農者の高齢化、兼業化等により地域農業の低迷が際立ってきた。

そのような状況の中、中山間地域である本町の自然を生かし、地域農業の活性化、定住環境の促進を目指す総合整備事業である中山間地域総合整備事業に取り組むことにより、本町の将来にわたる活性化を目指そうという機運が大いに盛り上がり、平成 12 年度に事業が採択され 9 年間の順調な事業進捗のもと、平成 20 年度に全事業が完了したものである。

4 取組みの効果

平成 20 年度に全事業が完了し、農業生産基盤、生活環境基盤、交流基盤を目的とした諸施設が整備され、地域農業の発展に大いに寄与している。

特に、論田地区に建設された活性化施設の「論田ふれあいセンター」は、地域の研修会、同好会、調理加工実習、健康診断会場等、住民生活にとって無くてはならない施設となり、大いに利用されている。

また、農林業を主体とした農山村である本町の振興を図るため、特産品の販売や都市との交流を目的とし、田口地区に建設された「おふくろの駅」は、当事業により用地整備を行い、町事業により上物が整備されたが、平成13年度のオープン以来平成20年度に至るまで、計画に対する売り上げは1.54倍、来客数は1.37倍となり、町の雇用促進にも役立っている。

5 国、地方公共団体等の施策支援との関わり

事業名：中山間地域総合整備事業

負担割合 国：55%

県：30%

町：15%（営農飲雑用水のみ5%の受益者負担あり）

6 今後の町の施策

「ふるどの西地区」の事業完了により町の西部区域は整備されたが、東部区域は未整備な地域が分散しており、平成22年度の事業採択を目標として「ふるどの東地区」の計画作業が現在進められている。

事業内容としては、農業用排水路、農道の整備が中心となる。



活性化施設整備「論田ふれあいセンター」



農道整備



農村公園「町民憩いの森公園」